

# 神戸市外大 中国語通訳養成へ

神戸市外国語大(神戸市西区)が、中国語の通訳養成カリキュラムを2022年春にも新設する。中国の著しい経済成長を背景に、外交やビジネス、観光など各分野で通訳の需要が高まっており、同大は専門性が求められる同時通訳の養成を目指す。国内の大学としては異色の教育プログラムを設け、全国から優秀な学生を呼び込む狙い。(石沢菜々子)

## 22年にも新カリキュラム

同大の中国学科は、ネイティブ教員による少人数授業や中国の大学との交流など、実践的な教育が特徴。卒業後、外交官として活躍する人もおり、昨年6月の20カ国・地域首脳会議(G20大阪サミット)では、卒業生が中国の習近平国家主席の通訳を担当した。

新たなカリキュラムでは、こうした同大の中国語教育の強みを生かす。通訳養成に力を入れる中国の大学視察などを踏まえ、人材確保や具体的な教育プログラムの作成を進める方針で、同市は20年度当初予算案に調査費を盛り込む。

一方、同大は世界各国の学生が討議で国際問題や外交関係を学ぶ「模擬国連」の活動に先駆的に取り組んでおり、模擬国連の普及や人材育成などを目的にした「神戸国際教育センター(仮称)」を21年春にも開設する。

## 外交、ビジネスで需要増

2020. 2. 6 (木) 神戸新聞分

さまざまな外国語がある中で先見の明を持って需要の高まりを上手についていきましょう。

チャンスを広げて自分の可能性 学びを生かして下さい。